

金子 あきよ

議会報告 2024年2月議会



埼京線沿いのJR環境空間緑地・公園として整備を

JR環境空間は、東北・上越新幹線の騒音、振動等の緩衝帯として、北は北与野駅周辺から、南は戸田市まで、埼京線・新幹線の両側それぞれ概ね20メートルにわたって連続して設けられています。



武蔵浦和駅北側の野方ふれあい公園、西南さくら公園、別所あじさい公園及びまほら公園（写真上）などは市民の憩いの場として活用されている一方で、未整備となっている区域については、その落差も大きく、住民要望を生かした整備を求める声が寄せられています。武蔵浦和駅の東南側の区域は、緑地や公園を求める強い要望があり、その必要性を執行部も認識しているにも関わらず、鉄パイプのフェンスで囲まれただけの歩行者用市道となっています（写真下）。こうした



実態をまちづくり委員会でとりあげました。

答弁では、JRの暫定活用が81%の進捗なのに対して、行政が担う緑地・緑道の整備が43%と進んでいない実態が明らかになりました。住民の要望を積極的に市に伝え、整備を求めていく必要があります。

子どもが大切にされるまちに

住みよいまち 安全なまち

新しい住宅地につくられた道路…なぜジグザグ？

今議会では、南区広ヶ谷戸の市道の認定・廃止についての審議がありました。宅地の開発のため斜面が大きく削られ、そこにあった通行されていない道路が廃止されました。この「付け替え」（廃止の手続きを経たうえで新設の道路との交換を行うこと）で新しい道路を認定するという議案なのですが…



そもそも議会で廃止を認定する前に、斜面にあった道路はすでになくなっていました（写真上）。法的には問題はないとの市の説明ですが、道路

の改廃も開発業者の都合に従っているということです。

一方で作られた道路は、急な勾配の坂道にもかかわらずジグザグな道で人にとっても車にとっても大変通行しづらい形状です（写真下）。もっと安全な道路とするよう指導することが必要だったのではないのでしょうか。

こうした点から、私はこの道路の認定・廃止に反対しました。もうすでに道路はつくられており、供用もされます。交通量も増えることが予想されます。実際の通行で危険はないか、しっかり注視していきたいと思います。



市内の学校に作られるプレハブ仮設校舎は来年度10校76教室になります。大宮南小学校ではプレハブ増設のために校庭が狭くなって大宮高校の校庭を借りて体育の授業をしています。南区の浦和別所小学校では児童が3日に1回しか校庭で遊べないという事態が、NHKでも繰り返し報道されました。家庭科室を普通教室に転用する小学校もあります。私はまちづくりの計画の中にこうした教育施設を位置づけ、学校施設を整備することが重要だと指摘しました。教育長はこの事態に「今後はより一層まちづくり所管との連携を密にし、子どもたちが不利益を被ることがないように教育環境の整備に努めていく」と述べましたが、誰が施設整備の最終的な責任を持っているのかは明らかにしないままです。都市開発優先の姿勢ではなく、「子どもの教育環境を第一に」考えた計画を求めていきます。

教室不足は深刻！真剣な対策を

予算委員会で実現求める



介護のための看護補助職員の拡充を

市立病院の入院患者に占める高齢者の比率は58.6%に及びます。私は看護師の負担軽減のため、食事や排泄など介護の必要な患者に介護を行う看護補助職員の増員を求めてきました。ホームヘルパー2級など有資格の看護補助者が昨年度10人→今年度15人に増員されました。看護学生に看護補助を週1回程度担ってもらおうと取り組みも始まることになっています。高齢者の日常生活能力を低下させないためにもさらに充実を求めます。

公民館のエレベーター・Wi-Fi設置拡充を

市は2017年度実施の設置可能性調査に基づいて可能とされた公民館に順次エレベーターを設置しています。私は南浦和公民館など、必要性の高い公民館について技術の進歩、躯体に影響しない工法の工夫するなどの観点で再調査の検討を求めました。Wi-Fiの拡充についてもすべての公民館での設置を求めました。教育委員会も、Wi-Fi自体は今の環境整備の中で必要なものという認識があると答えました。

質疑したテーマ （教育・建設・病院）

子どもと先生の信頼関係を壊すスクールダッシュボードの導入中止/市立小学校通学バス代の全額支給 対象者は27人、必要な予算は22万円/建設労働者公共工事労働単価の引き上げ 国が示した引き上げは6%、これでは安心して週2日休めない/沼影公園廃止計画の撤回/高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助制度の継続/病院で働く会計年度任用職員の処遇改善

市政に市民の声は届いていないのでしょうか？



大型開発に暮らしがつぶされる

2024年度予算は過去最大の1兆1816億円という巨大予算ですが、134万人のさいたま市民の暮らしを支えるものになっていません。

最優先で推進

駅前中心の大型開発に約152億円

巨大プロジェクト
大宮駅GCS化構想

20年先に実現?! 地下鉄7号線延伸

反対の声を無視

沼影市民プール廃止

レジャープール削減

高齢者施設グリーンヒルうらわ廃止

交通政策提案がみもの

高齢者等の外出・公共交通利用促進策として、2022年12月党市議団提案の「交通政策」に示した運賃助成制度の検討と、デマンド交通の実証実験を立案していくことが明らかになりました。「交通は人権である」という立場から行なった提案が積極的に受け止められたことを歓迎し、支援の対象を狭めない制度設計を求めています。(デマンド交通とは…利用者の予約に応じて経路やスケジュールを合わせてバスや乗合タクシーを運行する地域公共交通のこと)

国保税・介護保険料の引き上げ

国保税は8年連続の引き上げ。介護保険料は保険料率区分を細分化したにも関わらず、ほとんどの人が引き上げになります。介護保険では、利用者の負担増につながる条例改定も行われています。物価高に苦しむ高齢者や家族に負担を強いるもので、必要な介護を受けられない人も生まれかねません。国保税の負担ももう限界です。党市議団は、基金や一般会計からの繰り入れを行い、国保税・介護保険料の引き上げをしないことを強く求めます。

新年度事業に対する私たちの態度

歓迎!市民の声で実現へ

子育て支援医療費助成制度の高校生年代への拡大
障がい者(児)の移動支援体制の充実
給付制奨学金(大学等進学「夢」支援)
市立中学校の体育館への空調機整備
DV相談共通シートの改善・同行支援実施
気候危機対策としてZEH・ZEB・LCT拡大
高齢者等の移動支援事業の拡大

市民の意見を反映させた事業として実施を

こども誰でも通園制度(仮称)の試行的実施
JCHOさいたま北部医療センター跡地活用
桜木駐車場用地の活用
新庁舎の整備・現庁舎地利活用
不登校等児童生徒への支援の充実「Growth」
小中学校水泳授業の民間委託の拡大
デジタル地域通貨・市民アプリの導入
さいたまスポーツシューレ整備

反対!撤回・中止を求める

地下鉄7号線延伸事業
与野中央公園ミニアリーナの整備
武蔵浦和義務教育学校の整備
沼影公園解体事業
スクールダッシュボードの運用
さいたまクリテリウムの開催支援
放課後子ども居場所事業